

ゆきの灯り

第54号

令和3年7月発行
油木協働支援センター
TEL 82-0701
FAX 82-2228

化石魅力化プロジェクト

「地域のお宝」活用方法を協議

六月二十一日(月)、油木高校・神石高原中学校・油木小学校から先生方を招き、「にしかわ化石館」オープンに係り展示内容・活用方法についての意見交流会を開催しました。
化石館内や数々の化石標本を見学していただいた後、先生方からは、次のような意見を伺いました。

- ・「地元で採れた(地元の人が集めた)実物は身近に感じられ興味を持てる。自己学習・生涯学習の第一歩になる。」
- ・「歩いて来られる立地条件なので2時間続きの授業で利用可能である。」
- ・「情報の場として、調べ学習・自由研究・科学研究の情報が得られるように。」
- ・「個人的に興味がある生徒もいる。個人の学習の場として使い勝手が良いのではないか。」
- ・「映像や音響も工夫すればよい。ユーザーの利用も考えられる。小さな子にも興味をわくのではないか。」



「にしかわ」での意見交流会
—先生方から積極的な意見を伺いました—

「にしかわ展示室」展示作品募集!!

「にしかわ」で学習活動の成果や趣味・コレクションの展示・発表をしてみませんか。

「にしかわ」では、展示作品を募集しています。

(お問い合わせ)

油木協働支援センター

0847-82-0711

『白球は飛んだ!』

小山コレクションの世界

好評開催中

七月三十日まで



高校野球熱戦の記録

新規職員 紹介

六月より事務局次長として採用になりました野上欣也です。横浜より昨年高蓋に参りました。よろしくお願ひします。

「夏の花を描く」

大人のアートクラブ

六月二十一日(月)、若林佐都子先生を講師に招き「大人のアートクラブ」を開催し、「夏の花を描く」をテーマにアンスリウムの花を色鉛筆で表現しました。

難しい題材でしたが、若林先生の丁寧な指導のもと参加者の皆さんも満足いく作品が仕上がったようです。

「無心で花を見つめながら鉛筆を動かす時間は、とても落ち着きリフレッシュできました。」との感想も聞かれました。



作品制作の様子



「ゆきキッズクラブ」

粽・柏餅をつくりました

六月二十六日(土)に、今年度最初の「ゆきキッズクラブ」を開催しました。

一年生から六年生までの児童十四名が参加しました。事前に、油木地区で採れた笹の葉、い草(ゆがら)、サルトリイバラや柏の葉をスタッフが用意し、小田緑先生と、神石高原町女性会油木支部の皆さんの指導を受けて、団子を包み、粽・柏餅をつくりました。



楽しく調理することができました

ひとり一人が地域に伝わる作り方を体験することができました。皆さんは一緒に食べたかったと思いますが、コロナのため我慢。作った粽と柏餅は持ち帰り、家の人と一緒に食べました。



子ども交流会と夏の川

開催日時：令和3年8月8日(日)
9時~13時

開催場所：田頭 御所ヶ谷川
【現地集合、現地解散】

集合場所：田中製材

※少雨決行

大雨や増水の場合は総合交流センター じんせきの里で開催します。

参加費：無料

定員：各支援センターで、先着各校児童 7人
※保護者が必ず同伴してください。
※保護者の方も濡れてもよい服装でおいでください。

持参物：飲み物(お茶または水) 替えのマスク
軍手 虫よけスプレー 水着 着替え
タオル むれてもいい運動靴
キッチンバサミ

締め切り：令和3年7月19日(月)

内容

川でマスのつかみ取り体験・マスのさばき方
串ざし体験・マスの塩焼き・おさかなクイズ等



ヒメボタルの季節到来!

ホタルといえば川面を飛び交う清流を連想しますが、ホタル全体ではむしろ陸生の方が普通だそう、森林内に生息することが多いです。

油木の出佐谷では今年二十回目の「ヒメボタルを観るタベ」が開催される程多く飛び交います。ヒメボタルは、ハイケヤゲンシホタルのような糸を引くような光り方ではなく、一秒間に複数回光るため、森の中でイルミネーションのようにピカピカと幻想的に光ります。まだ間に合います。油木の宝石を見に行ってみませんか。



撮影：今川重信氏（福山市）

神石高原『平和の千羽鶴運動』

今年も平和公園へ折鶴の献呈を八月十九日に行うことになりました。コロナ禍、今年は最少人数とするため、各センター職員のみでの参加となりました。来年はいつも通りの参加ができるといいですね。

油木協働支援センターでは折鶴を受け付けています。

昨年は神石高原町として折鶴八万一千羽を捧げました。よろしくお願いたします。



今年は七月三日頃に飛び始めました。これから二週間後まで楽しめます。夜暗くなるとから光りだします。見ごろは八時から九時頃までです。暗い森の中でマムシはもちろんのこと、虫対策も万全で来てください。

空き家や土地をお持ちの皆さまへ【3】 空き家対策：知っているとな役立つ助成金・補助金



空き家対策チーム

空き家対策に役立つ支援制度

空き家解体撤去事業(最大 50 万円)

老朽化した空き家を解体することで地域の生活環境の保全を図るため、解体撤去費用の1/3(補助金限度額 50 万円)を支援します。支援は築35年以上で、5年以上居住していない物件を解体する場合、町内の業者で解体工事を行う条件で支援します。解体費は約3万円/坪です。田舎の家は母屋だけでなく、土蔵、納屋等多くの家屋があり、解体費用が高額になりがちです。解体費用が500万円になったケースも報告されています。

空き家家財撤去処分事業(最大 20 万円)

空き家バンクに登録する空き家の家財道具を処分する場合に、撤去費用の1/2(最大20万円)を支援します。家財道具が多く、処分費に80万円かかったケースも。

***:必ず撤去前の申請が必要です。**

空き家活用促進事業 (最大 10 万円)

空き家バンクに登録した家屋を、神石高原町へ移住を希望する方へ提供する空き家所有者(賃貸、売却ができる権利を有する者含む)を支援します。

空き家を活用する支援制度

空き家及び住宅改修事業 (最大 50 万円)

空き家バンク登録物件を購入又は賃貸した移住者、自宅を改修するリターン者、新婚定住者が自宅を改修する場合に、改修工事の一部(最大50万円)を支援します。

子育て世帯等の住宅取得支援事業(最大 150 万円)

子育て世帯、新婚世帯、新規転入世帯、三世帯同居・近居世帯が町内に住宅を取得する費用の一部を支援します。中古(空き家)も対象。但し、住宅は玄関・台所・トイレ・浴室・居室を備え、住居として利用上の独立性を有するもの。申請者は交付決定後10年以上定住する方。

※取得とは

- 新築住宅：登記における新築年月日
- 中古住宅：所有権移転登記年月日

こんな方が空き家情報を待っています。

- 子どもをのびのび育てる自然環境。
- 家庭菜園、農的な暮らしの実現。
- 古民家に住んでこだわりのある暮らし。
- 起業し、地域の活性化に役立ちたい。

次回予告→空き家バンクの制度・実績について

不定期連載企画「頭の体操！」

6月号の回答です。

1問目答：ふ(お魅 ぶ)のおみそ汁(「今日、ふのおみそ汁よ。’) マサくんは、「今日ふのおみそ汁」を「恐怖のおみそ汁」と聞きまちがえてしまったのだ。いったい、どんな具を想像したのだろう。(笑) このように、言葉の区切りを変えて読むことを、『ぎなた読み』と言う。

2問目答：横にして一番左に付け足すと、「-3+1=-2」となって成り立ちます。ところでこの問題にはもう一つ答えがあります。「等式」である必要はないんです。というわけで、「3+1=/=-2」でも正解になります。

家族がわいのお手伝い屋さん

あかぎくにあき
赤木 邦昭
8090-4697-9766
神石高原町安田5051-1



一緒に食事をするって、とても大切。『出典：文部科学省』

子どもにとって、食事は身体の健康だけでなく、心の成長にも深くかかわっています。家族一緒に食事をすることによって、家族のふれあい、食事のマナーなど社会性を深めることにもつながります。できるだけ家族そろっての食事を心がけましょう。

また、食事を一緒に「つくる」ことも大切です。自分の手で食事をつくることを通じて、食材や調理法について学ぶことができます。また、家族のために食事をつくる喜びや達成感を実感することができます。

一緒に食事をつくって一緒に食べることを通じ、食に関する知識や豊かな心を育てていきましょう。

『日本の食文化を伝えよう』

日本は南北に長く、春・夏・秋・冬の四季があり、季節ごとに旬の農産物や水産物などがあります。これらの食べ物をおいしくいただくための知恵が、食品や料理を通して伝えられています。



『ごはんのみそ汁は昔の人の知恵』
豆腐やわかめ、野菜などを入れたみそ汁は、ごはんを食べやすくするとともに、いろいろな栄養素を補ってくれます。



資料
「楽しい食事つながる食育」
平成28年 文部科学省

